

SDGs未来都市等進捗評価シート

徳島県 上勝町

2020年8月

SDGs未来都市計画名

上勝町 SDGs未来都市計画

SDGs未来都市等進捗評価シート

2018年度

1. 全体計画

計画タイトル	上勝町 SDGs 未来都市計画	
2030年のあるべき姿	①彩山(いろどりやま)を活用した産業振興 ②農林水産業における新規就業者の促進 ③ゼロ・ウェイストブランドを活用した循環型まちづくり ④四季を通じた滞在型観光と体験型交流の促進	⑤若者の就職支援と後継者の育成 ⑥持続可能な美しいまちづくりの推進 ⑦ゼロ・ウェイスト施策の推進 ⑧生涯現役で活躍する健康長寿の形成

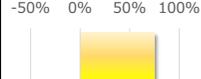
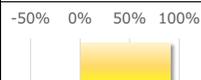
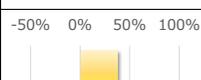
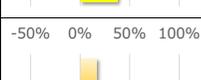
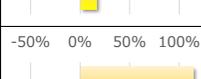
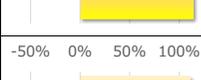
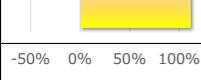
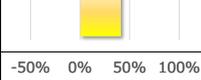
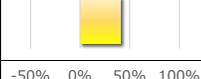
	経済	社会	環境
2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール	ゴール 2 ターゲット 2.3, 2.4 ゴール 8 ターゲット 8.3, 8.9 ゴール 15 ターゲット 15.2	ゴール 3 ターゲット 3.4 ゴール 4 ターゲット 4.4 ゴール 8 ターゲット 8.3, 8.9 ゴール 11 ターゲット 15.c ゴール 15 ターゲット 15.2	ゴール 9 ターゲット 9.4 ゴール 12 ターゲット 12.5, 12.a ゴール 13 ターゲット 13.2 ゴール 17 ターゲット 17.7, 17.17

	#	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2030年		進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
			2018年3月	8,787 kg/年	2030年	12,000 kg/年	
優先的なゴール、ターゲットに関するKPI	1	葉わさび出荷数量	2018年3月	8,787 kg/年	2030年	12,000 kg/年	7,900kg/年 彩山事業で林間栽培も挑戦中（2019年 7,900kg/年） ※出荷ピークが3月～5月であり、新型コロナの影響により、2019年度の出荷量が激減した。彩(葉っぱ)商品は、料亭等がメインターゲットであるが、コロナ禍でも安定した出荷量を確保できるよう市場開拓を模索している。
	2	林間葉わさび作付面積	2018年3月	0 m(累計)	2030年	1,000 m(累計)	500m(累計) 彩山事業で実験圃場整備を追加（2019年 300m追加）
	3	新規就農者数	2018年3月	5 経営体(累計)	2030年	15 経営体(累計)	7経営体(累計) 彩山事業にて粘り強く研修を実施（2019年 2経営体増）
	4	新規起業家人数	2018年3月	5 人(累計)	2030年	15 人(累計)	10人(累計) ローカルベンチャー事業でフォローしていく（2019年 1人増） ※2020年に活動拠点となるコワーキングスペースを整備し、起業支援を強化を図る。
	5	起業家型人材の地域へのマッチング数	2018年3月	9 人(累計)	2030年	60 人(累計)	19人(累計) ローカルベンチャー事業でマッチング継続中（2019年 5人増）
	6	ヘルスツーリズム受入数（年間）	2018年3月	0 人/年	2030年	300 人/年	32人/年 ヘルスツーリズムを実施 年2回の開催(春、秋)（2019年 32人受入） ※2020年3月に3回目の開催を予定していたが、新型コロナの影響により開催を中止した。
	7	町の資源を活用した健康プログラム開発件数	2018年3月	0 件(累計)	2030年	15 件(累計)	2件(累計) 上記ヘルスツーリズム内に森林空間そのものを資源とらえたプログラムの構築（2019年 1件開発）
	8	ローカルベンチャースクール開催数	2018年3月	4 回/年	2030年	4 回/年	1回/年 事業コンソーシアムを再構築し、再開（2019年 1回開催） ※2020年は、2回/年の開催に向け調整中。
	9	町産材を活用した建築物の増	2018年3月	0 件(累計)	2030年	5 件(累計)	1件(累計) 町産材を使用した新ゴミステーションが完成（2019年 1件）
	10	ゼロ・ウェイスト関連新規事業所数	2018年3月	4 事業所(累計)	2030年	15 事業所(累計)	5事業所(累計) 新ごみステーションの中にシェアオフィスなどを併設し受け入れ体制を強化している（2019年 1事業所）
	11	ごみのリサイクル率	2018年3月	79.7 %/年	2030年	85 %/年	80.6%/年 継続した取り組みを実施中（2019年 80.6%）
	12	くるくるショップの横展開数	2018年3月	0 件(累計)	2030年	10 件(累計)	2件(累計)（2019年 0件）くるくるショップ（リユースショップ）の横展開の2019年度の実績としては0件であったが、ゼロウェイストの理念に基づき、粘り強く取り組んでいく
	13	企業版ふるさと納税寄付企業数	2018年3月	0 社/年	2030年	5 社/年	0件 持続可能な連携のため調査、協議中（2019年 0件）

1. 全体計画

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題 地域創生総合戦略に盛り込むべく、地域創生戦略会議を実施中</p> <p>■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ SDGsに沿った取り組みを加速させるため、SDGsの項目から新たなマイプランを立案する職員研修を開催し、職員が自ら調査し、課の取り組みを超えた事業ができる体制作りを始めている</p>	<p>■広報・町民運動会・折り込みチラシ 広報で半年間に渡りSDGsについて掲載。SDGs推進委員会の各回の状況も折り込みチラシで周知。町民運動会では体育協会が自らSDGs未来都市に選定されたことを運動会のプログラムで周知。</p> <p>■SDGs推進委員会ヒアリングによる周知 ビジョン策定時に町民ヒアリングを実施している。ヒアリングをすること事態がSDGsを知るきっかけにもなっている。</p> <p>■彩山を活用した産業振興事業 SDGs インターンシップや彩農業教育プログラムの実施を通して、情報発信に取り組んでいる。</p> <p>■ゼロ・ウェイストセンター 木造建築による新ゴミステーションとなる宿泊施設も備えたゼロ・ウェイストセンターが完成。これにより、ゼロ・ウェイストやSDGs に特化した滞在型観光研修プログラムを開発し、体感型情報発信を加速させていく。</p> <p>■少子高齢化・人口減少 空き家の紹介や改修の伴う支援等を拡充させ、移住促進を図っていく。 上勝町の資源を活用した起業家等の人材集積拠点となるコワーキングスペースを創設し、育成及び企業支援を行い、地域経済を活性化を図っていく。</p> <p>■交流人口 彩山事業、ヘルスツーリズム、ローカルベンチャー事業等を継続、充実させ、関係交流人口の増加を図っていく。</p>	<p>■人口1500人の県内最小の町としてSDGsに果敢に挑戦している。コロナ禍であっても、いろり山の売上、ゼロ・ウェイストセンター完成で視察者が昨年度よりも増加するなどの実績を出しており評価できる。小規模ながら葉っぱビジネス、ローカルベンチャーを中心とした経済、そして環境面での成果は出つつあるので、今後は社会面としての健康やコミュニティにも期待する。</p> <p>■三側面の統合を意識した多面的な取組が着実に進捗していると思料する。小規模自治体のSDGsのモデルケースとしての意義も大きく、今後も更なる推進を期待する。</p> <p>■公募委員による「住民への問いかけ」の取組は、特に優れており、その取組が継続的に行われることが重要である。</p>
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■SDGs推進委員会 上勝町SDGs推進委員会を新設し、委員は町内の民間企業、役場職員から公募により選出。2030年の上勝町のビジョンをSDGsを活用し再構築している。ビジョン作成時から民間企業と取り組むことで実施時にスムーズに移れる体制を構築している。オブザーバー参加も許容し、後乗りも許容することで今後の展開にも幅を持たせている。</p> <p>■NPO法人日本で最も美しい村連合 町単体よりも連合としての情報発信能力が高く、また他地域の特産物などと連携した商品開発、付加価値づくりに継続して取り組んでいく。</p> <p>■広域連携ローカルベンチャー推進協議会(西粟倉村など11市町村) 他の自治体と連携し、起業志望人材の掘りおこしを継続して図っていく。</p> <p>■徳島県 2017～2018年度にゼロ・ウェイスト型エシカル購買モデルとして徳島県とともに「量り売り」にフォーカスした実証実験を実施。2019年は、「量り売り」をマニュアル化し、町内店舗へ拡充を行った。今後も、「量り売り」の協力店舗の拡充を図っていく。</p> <p>■地球環境を考える自治体サミット24市町村 地球規模での環境問題の根本的な解決に向けて、情報交換や交流を通して連携し、自治体毎の取組みの強化並びに広域的な環境施策に継続して取り組んでいく。</p>	<p>■住民の主体性の向上 地方創生には住民の主体性がなければ持続しない。上勝町では主体性を尊重し、SDGs推進委員会が住民のところに周り、「上勝町に増やしたいものは何ですか」と問いかけをして回っている。問われた住民は自然と上勝町のことを考えるので、町について考えるきっかけをつくっている。SDGsはきっかけ作りや、ステークホルダー作りのツールに過ぎず、上勝町では住民の主体性から出たものを行政がサポートする形で昇華させ真の地方創生に貢献していく。</p>	

1. 全体計画

自治体SDGsの 推進に資する 取組の 2020年のKPI	取組名	ター ゲット	指標名	当初値	2019年	2020年	達成度 (%)	進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）	
	①彩山（いろどりやま）を 活用した産業振興事業	いろどり山ラホへの参加者数	2.3	いろどり山ラホへの参加者数	2018年3月 421名/年	2020年3月 856名/年	2020年 1,000名/年	 75%	企業の新人研修に活用したり、ヘルスツーリズムをしたり彩山フィールドを活用した取り組みを実施(新型コロナウイルスの影響により3月に予定していたヘルスツーリズムイベントを中止) (2019年 856人)
2.4			いろどり山ラホの売上創出額	2018年3月 243,940円/年	2020年3月 14,625,489円/年	2020年 16,000,000円/年	 91%	間伐材を木糸に加工し、タオルなどの新商品開発に取り組み、商品が完成したため、徐々に売り上げを伸ばしている (2019年 ¥14,625,489)	
3.4			農林業関係者の移住者及び彩関連ビジネス創出者数	2018年3月 2名(累計)	2020年3月 5名(累計)	2020年 10名(累計)	 38%	彩山でフィールドプログラムなど新規就農者獲得に向けた研修を行った (2019年 3名増)	
②ゼロ・ウェイストブランドを 活用したサステナブルセン ターの自立型運営新組織 創造事業		ゼロ・ウェイストに呼応する企業誘致数	9.4	ゼロ・ウェイストに呼応する企業誘致数	2018年3月 4社(累計)	2020年3月 5社(累計)	2020年 10社(累計)	 17%	新ゴミステーション建設によりシェアオフィスなどを併設し受け入れ体制を強化している (2019年 1社増)
			11.c	ゼロ・ウェイストブランドの効果による新規来町者	2018年3月 11,000人(累計)	2020年3月 32,640人(累計)	2020年 30,000人(累計)	 114%	ゼロ・ウェイストブランドを行政視察以外にも幅広く活用できるようコンテンツを増やしている (2019年 7,797人)
			12.a	誘致企業による経済効果	2018年3月 6,253万円(累計)	2020年3月 15,989万円(累計)	2020年 15,000万円(累計)	 111%	ゼロ・ウェイストブランドによる起業により新たな経済効果を生み出している (2019年 4,570万円/年)
③自治体広域連携による 「ローカルベンチャー」推進 事業		ローカルベンチャーによる売上規模	17.7	ローカルベンチャーによる売上規模	2018年3月 24,900万円/年	2020年3月 35,100万円/年	2020年 50,000万円/年	 41%	新たな事業展開のサポートを継続して支援中 (2019年 35,100万円/年)
			17.17	新規起業人数及び新規事業創出数	2018年3月 4件(累計)	2020年3月 7件(累計)	2020年 10件(累計)	 50%	バックオフィス支援により起業者のサポートをすることができた (2019年 0件)
			8.3	起業家型人材の地域へのマッチング	2018年3月 9人(累計)	2020年3月 19人(累計)	2020年 15人(累計)	 167%	都心部とのマッチングイベント等により接点の増加 (2019年 5件)